友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽 1-7-1
電話 東京 (941) 2801
編集兼発行人 斉藤 実
定価 1部 10円

〈綱領〉

一、われわれは、自由と民主主義の基礎にのっとり友愛社会の実現に邁進する。
一、われわれは、民主主義を擁護し、民主政治の発達を期する。
一、われわれは、科学技術の保護と、文化の発展に貢献し、日本国民として公正な識見を確立する。
一、われわれは、全世界の人間的つながりを強調し、全世界の人間の相互理解と、世界人類の繁栄に貢献する。
一、われわれは、人間尊重の原則に立脚し、人類の福祉に寄与する。

万博、世界青少年の集い

明年七月開催決定

尾形幹事長副委員長に

人類の進歩と調和を目ざした万博も明年に迫り、秒を数えるまでに近ずいた。明日への発展を担う世界の青少年がこの機会に一同に会し、連帯感を強めようとする「万博・世界青少年のつどい」は明万博とともに開催される。本会が主体となって準備が進められ、中青連が加わり更に充実を期し準備体制が整いつつある。この事業にあたり、本会より副委員長に尾形智短幹事長、事務局次長に辻谷勝弘国際部長、委員に永田清成常幹を派遣してこれに当ることになった。今後の活動を注目されることを期待したい。

中央青少年団体連絡協議会（加盟団体三団体）では大阪で開催される万国博覧会の際に、世界各国より集まる青少年の「万国博、世界青少年のつどい」を一九七〇年七月中旬より一週間にわたり、大阪と東京の二会場で開催することになり五月二十六日午後三時から東京・青山の日本青年館で開かれた第三回委員会で、その計画の大綱を審議した。

「万博・世界青少年のつどい」は、このたびの万国博覧会においてはじめて開催されるもので"産業と文化の祭典」日本万国博覧会に、世界の青少年の若い情熱と英知を結集し、さらに意義あるものとすることがそのねらいである。

現在われわれの世界は、高度の機械文明や国際緊張の中で失われつつある人間性の回復と、より豊かな社会の発展をめざしての相互協力と協調によりその目的達成に努力を傾注している。

きたるべき二十一世紀を担うものは青少年である。これら青少年が、世界を自分の目で見、肌で感じること、共同生活を通じての相互理解を深めること等は国際人となる第一歩であり、二十一世紀の社会開発に無限の可能性を与えるもので人類の進歩と調和には不可欠の要素である。

万国博覧会のこの機会に、世界の有為な青少年を一堂に集め、万国博覧会の見学、世界青少年の意見発表と討論集会、国際青少年友情祭等多彩な行事を中心に開催することは青少年の健全育成と資質の向上、日本の青少年団体連帯の結束を強化する上にも大きく役立つものである。

このような考え方に立って政府並びに東京都、大阪府をはじめとした諸機関等より多くの協力を得て実施しようとするのである。

「万博・世界青少年のつどい」の主題、趣旨、開催地、開催期間、実行委員会は委員長一名、副委員長五名、総務、財務、国際、行事、生活の五部会をそれぞれ担当、事務局長一名、事務局次長一名。

実行委員は加盟団体より各一名、協力参加団体から各一名、実行委員会の下に部会を設置する。部会は、(イ)総務部会―総合企画の調整、国内渉外、広報活動、(ロ)財務部会―予算の策定と財源の確保、(ハ)国際部会―諸外国との渉外、通訳、翻訳、(ニ)行事部会―行事別に専門委員会を設置、(ホ)生活部会―宿舎、食事、衛生、輸送とする。

事務局は当面、東京都千代田区永田町の二の三五番、全国町村会館内、TEL東京（〇三）五八一三四〇に置き必要に応じて大阪に分室を設ける。事務局は事務局長、事務局次長、職員をもって構成する。

尚中青連委員会で決定をみた役員は左の通りである。

実行委員長　橋本祐子（中青連副委員長）

〃　荒井清一（日本赤十字社青少年課長）

〃　佐藤敬次（総務担当、日本健青会々長）

〃　尾形智短（財務担当、友愛青年同志会幹長）

〃　浜田喜美子（国際担当、ガール・スカウト日本連盟総主事）

〃　金谷勝郎（行事担当、日本郵便友の会協議会）

事務局長　水野西郎（生活担当、日本青年団協議会事務局長）

事務局次長　古屋良則（中青連事務局長）

〃　辻谷勝弘（友愛青年同志会国際部長）

意欲の新体制選出

第一回常任幹事会開催

去る五月十二日（月）午後七時より、鳩山会長邸新館にて、新年度第一回常任幹事会を川口中常任幹事の議長の下に開催した。

議題は、①大会決定事項の確認、②執行部・特別委員会委員長選出について③靖国神社法案について④教科書を守る会について⑤その他についてであった。

①は、大会決定事項の確認をし各分科会の取り組み方次の様にした。第一分科会は、政策委員会を早急に開催し、理論委員会の準備内容検討をし、新聞編集については、極力読み易いものにし、六月中に安保問題の結論を出し、地方へ伝達し、国際交流問題、特に東南アジア問題を一ヶ月以内に結論を出すこととした。第二分科会は研修会に於ける各階に対する考慮を、上級認定制度を取ることとし文化講演会、全国八ブロック及び沖縄にて開催することとし、全国三十四ヶ所に行ない、会場は百名から一千名収容の所で行ない主題は「現代社会における青年の役割」「現代社会における友愛の役割」とすることとした。第三分科会については機関紙"友愛"第一九九号で発表したので省略するが組織構成は次の通りである。関係機関、組織構成団体代表者をもって「万博・世界青少年のつどい」実行委員会を構成する。

実行委員会は委員長、名、副委員長五名、総務、財務、国際、行事、生活の五部会をそれぞれ担当する。

充実した布陣整う

第一回執行部会議開催

去る五月二十一日（水）午後七時より、本部事務所にて斎藤美文化部長の議長の下に第一回執行部会議が開催された。

開会に先立ち尾形幹事長より、新年度の決意が述べられ、経過報告がされ、議事に入った。尚、今回は、徳島より、中村博彦常任幹事が オブザーバーとして 参加した。

議題は、①全国大会決定事項の取扱いについて、②友愛文化講演会について、③交流協会独逸派遣者研修会について、④バンコック市役所ビビット氏来日について、⑤執行部次長についてであった。

①は、常任幹事会決定事項に基づいて、各分科会の確認をし、ポスター作成の件も検討することとした。②は、旗上げを東京で、文化部長の責任を文化部長がおこない

活動促進に支援協力

第二回　育成国民会議総会開く

社団法人 青少年 育成国民会議（会長＝茅誠司氏）では、第二回総会を東京港区赤坂町の虎の門共済会館に全国から代表者を集めて開催した。

総会は、第一部総会議事と第二部総会討議行事の二部に分けておこなわれた。

育成国民会議は、昭和四十一年五月に、"青少年は日本の希望である。日本の明日を担い、世界の将来を築くものは青少年である"との考えから、全国の親、青少年を指導する立場にある者は勿論、一般国民が、青少年育成国民運動を旗印に結成されたもので、全国青少年諸君に警起を促し、国民各位の積極的な呼かけを力強くおこなっている団体である。

第一部は、開会の辞に続いて、賛歌代斉唱、茅誠司会長の昨年度一年間の運動の展開を中心に挨拶を述べられ、来賓の祝辞を受け、議長指名をおこない議事に入った。

議題は、(1) 昭和四十三年度青少年育成国民運動に関する報告 (2) 昭和四十三年度収支決算報告 (3) 昭和四十四年度活動方針及び事業計画について、(4) 昭和四十四年度収支予算について (5) 次期役員の選出についての五議題案であった。

(1)と(2)は関連する議題で、一括され報告され、二、三の指適事項があったが、事務局の明朗な答弁によって、満場一致をもって承認された。

続いて、(3)、(4)に応ち(5)の議案について選考委員会を設置して選考を附託した。

(3)については、結成大会宣言を基礎として活動方針を組べ、青少年のグループ活動の促進、健全な家庭づくり、社会環境の浄化をするための活動を折り込み、事業活動においては、青少年団体等の活動に対する支援協力、各種器材の整備、貸出し、グループ活動の紹介、論文、作文の募集、青少年のつどい全国大会の開催、「家庭の日」普及事業、その他各催し物の開催、広報活動をすること等、承認され、(4)については(3)と関連する為、同時に慎重審議され、ほぼ昨年度並の予算案が承認された。

続いて、選考委員会に附託された(5)について、会長外四十二名の新役員が発表され、万場一致をもって承認された。

午後から第二部総会付随行事に入り、"青少年指導の経験から"の演題で前第二少年院長長川洋氏の講演がおこなわれ、氏が山口県柳井市に於ける寮のない少年院を作ることに成功したこと、罪を犯した者の立ち直りには信頼が第一であること、彼等の劣等感の除去のこと等、体験談を披露され、非常に感銘をうけた。

続いて研究討議（自由討議）に入り、主題を「青少年育成国民運動はどのような重点指向をすべきか」にし、昭和四十五年度の活動と予算を中心にして、体制、組織充実等の諸問題について、活発に討論された。

以上をもって昭和四十四年度第二回総会を無事に終了した。

国際的感覚育てよ

海外派遣者続々決定

総理府青少年対策本部が主管をしている昭和四十四年度「青年の船」団員候補者内定の発表が、去る五月二十日（火）夕刻おこなわれた。

本会では、この事業に積極的に取り組み、全国組織より募集し、応募してきた者について常任幹事会にて慎重審議し、班長二名、団員十名の推薦者を総理府に提出した結果、班長、一名、団員六名の内定者があった。尚、団員になる正式決定は、六月十八日から六月二十六日まで御殿場の国立中央青年の家で開かれる研修会に参加している。

他の団員候補者は次の通りである。

高木邦弘君（小枚支部事務局長）
井端宣隆君（伊東支部事務局長）
永井英保君（千葉県永狭支部結成準備委員長）
杉本忠一君（石川県七尾支部結成準備委員長）
井本信六君（北九州文部副支部長）
湯山文子さん（三島支部）

ドイツ派遣

財団法人 世界青少年 交流協会（会長＝川崎秀二氏顧士）では、毎年自独交歓を行なっている。本年度派遣（第七回目独逸期交歓）として、日本の青少年を団長和歌山市長宇治田富二氏（予定）を始め百四十四名ドイツに七月一十三日から一ヵ月に亘って派遣することになった。

この派遣にあたって、本会より暗春として大阪府堺細川勝次君、一般団員として長野寿雄君（加賀支部）内村健君（東京都連）姫野雅代さん（徳島県連）の四名が、団員に選ばれた。

今回は、一ヵ月の交歓の中で、五泊八日以上の民宿を中心として各大学、高校での交流の外、国際青少年キャンプでの野外鍛錬、水泳、サッカー、体操等のスポーツ行事、討論会、音楽、合唱の交歓の外、二日間の独逸旅行等が加えられて青少年の独逸にふさわしい内容を備えており、また費用も大幅に縮減せられ、中流家庭の子弟に大きく門戸を開かれたのが特徴である。その為、応募者も殺到しかなり厳しい試験も行なわれ、選り抜きが派遣されることになり、その成果が期待されている。

本会では四名の代表者に対して、去る五月二十五日（日）午前九時より、本部事務所にて、派遣研修会を行なった。

なお、団員は五月二十六日（月）から五月三十日（金）までの交流協会主催の研修会に元気に参加した。

青年の船派遣

今回班長候補に内定したのは三松敬夫君で、北九州文部支部長として、又支部設立以来、中心的に活動し、会員の資質向上並びに人格形成に於て積極的に指導し、その能力を発揮している。地域活動に於ては、本会活動を主体に青少年グループと密接に連絡を取り、地域の発展にも努めている。勤務は、門司税関輸入部分析室入関に所属し、仲々の熱血漢である。「青年の船」班長としては、うってつけの人物である。これを機会に著々発展されることが期待されている。

青年の目を開け

友愛クラブ山口氏招く

去る五月十四日（水）正午より東京ヒルトンホテル「おしどりの間」にて友愛クラブ五月例会を開催した。

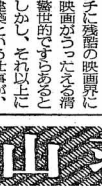
今回は、全国最年少代議士山口敏夫氏を招いて"動揺する青年問題について"の演題で講演を行った。

青年の問題は、今や社会問題化しており、各界で熱心に議論され又対策が立られているが、仲々名案が無い様である。氏も、党の青年部長の立場上、熱心に取り組まれている。

講演は、氏の学生時代に安保闘争に参画し、その渦中に入った自己の信念にその方向が反した事等による体験談を中心に、又昨年中小企業従事者の代表による東南アジア船上視察団々長で、団生活をしたことによる統制管理の難しさ、最近のデパ学生の社会、施政者の取り扱い方等非常に熱心に話された。会場連等、体制に反発をもっている若人を教育する為に、内容が盛りだくさんであった。

―映画評―

超高層のあけぼの



深津 栄一

本会常任顧問の麗島平之助（参議院議員、麗島建設株式会社会長）先生は建設業界の重鎮として重きを成しておられるが、霞ヶ関ビルに代表される超高層ビル時代を日本に開いた原動力にもなったとされる。霞ヶ関ビルをテーマとした東映系で公開された映画"超高層のあけぼの"について深津栄一先生より寄稿があったので掲載します。

新緑眼から虎の門に向って歩きながら、わたくしは正面にそそり立つ三十七階のビルの幾何学的な美しさが、この大通りの緑眼をまったく変えてしまったことに気づいた。それは、ニューヨークの摩天楼の谷間で、はじめて感じたものに通ずるものであった。それは超高層ビル時代のあけぼのが、この地震国日本に来つつあることの予感でもあった。

この映画は、この予感が明白に現実のものであることをわれわれに知らせてくれる。大正十二年生まれのわたくしは、地震の恐怖をまのあたりにすることがあるが、この映画は、地震の恐怖を

政府青年海外派遣

東西の大国と小国家群

那覇支部　崎山喜聖

総理府青少年対策本部が主管をしている昭和四十三年度第十回政府青年海外派遣は昨年八月中旬より十二月まで、各班に分かれて世界各国を訪問した。本会員は、八月十九日より十月二日まで北欧班（那覇支部長崎山喜聖）派遣した。この程その報告が届いたので掲載する。

今回の北欧班は、初めて共産圏を正式訪問し、丁度八月二十二日に、ソ連、東独、ポーランド等がチェコに侵入し、いわゆるチェコ事件を起したのに遭遇し、それにまつわるチェコスロバキヤ国周辺の各国の生の反響を聞き、東西の大国と小国家群の繋がりの重大さについて貴重な体験をした。そこで筆者は、特に〝友愛〟の必要性を痛感し感家しなければならないといっている。

はじめに

アメリカを頂点とする資本主義国、ソビエトを中心とする社会主義国、この二つの世界が今日ほど対立と競争を続けている時代はない。

米ソ間の競争は、宇宙開発とか対援助とか、工業力とか、原子力とかの競争というように見られがちだが、それはせいつめれば資本主義と社会主義という二つの社会体制が挙する思想の優劣競争にほかならないのである。

私たちは、共産圏では初めての正式訪問国であるハンガリーの訪問、スエズ運河閉鎖という国際政治の変転に伴いシベリヤ経由で上陸し、かい間みつ連、第三次世界大戦への飛び火ともおそれたチェコ事件にそう遇するという貴重な体験をした。

武力介入

眼下にシベリヤ大地を見ながらえんえん九時間の飛行の後、モスクワに到着した。

クレムリン宮殿、赤の広場、レーニン廟、ボリショイ劇場、モスクワ大学等、つぎつぎと展開される一大絵巻は、私を完全に魅了した。しかしながら、その喜びもつかの間、私たちは、瞬不安のどん底につきおとされてしまった。

ソ連の強大な軍事力でもってチェコを占領していたのである。

モスクワ政府の強引な武力干渉とその後の内政支配は、ただ単にソ連共産党の権力主義の傍若無人の振舞いを全世界に露呈したばかりでなく、政治的自由とその根底にあってこれを支える言論、結社集会の自由をふみにじってしまったのだった。

チェコ事件と関連して思い出されるのが、一九五六年のハンガリー事件である。

歴代のハンガリー政府は、小国ハンガリーの立地条件を無視して、何でもかんでもソ連の真似をし、経済計画は勿論、とても実現できない無理を国民に強いていた。そして又、歴代のスターリン主義官僚達は、ハンガリー国民自身の民俗感情を無視し、政府の立て前のはずだった民主主義の原則さえもおかしてしまった。こうして蓄積された国民の不満が、やがて労働者や学生の抗議デモとなって爆裂し、それを鎮圧する治安警察の発砲により、多くの犠牲者を出したことは記憶に新しい。

今度のチェコ事件でも、自由に対する抑圧という点で同じ事が言えるようだ。

シェイド少将の米国亡命、ノボトニー大統領の解任、親ソ派官僚の追放により、自由化はすっかり軌道にのった。

国内での発言に自由を得たチェコでは、対外面でも自主的な動きを求める気が強くなってきた。このような一連の動きに対してソ連は、あくまで武力に頼らずして大国の威力を示すことができなくなってしまっていたのである。

人間の間の争いが、言論を通じて解決されないことがあり、力によらなくてはならないのは大変に悲しく現実の姿である。

各国の反響

八月二十六日、八時、占領下のチェコ通過という恐怖から解放されて、オーストリアのウィーンに着いた。

楽都ウィーンでは、チェコからの亡命者が人目をひいた。街を見学中の私たちに「ソ連の武力介入をどう思うか」「共産主義をどう考えているか」などと真剣な目なざしで問いかけていた。また、ソ連への抗議の署名運動の学生がやっているのが見受けられた。

八月二十八日、共産圏ハンガリーを訪問したが、ワルシャワ条約機構により東欧五ヵ国のうつとして自動的にチェコ事件に参加しているだけに、一抹の不安を感ぜずにはいられなかった。

ブダペストの街の建物には、今もハンガリー事件当時の弾こんがはげしさを知らされ、又、チェコで起ったソ連軍の侵略に対してチェコ国民に同情的であることが伺われた。

九月二日、デンマークのコペンハーゲンに旅装をといた。

ここでは、チェコ事件がぼっ発に対して、学生や労働者が、ソ連帝国主義者は出て行けと書いたプラカードを持ってソ連大使館に連日デモを押しかけたようであった。

デンマークは、来年、つまり一九六九年はNATOの改訂期であるため、脱退か継続かで国民世論が高まって来ていたが、今度の事件で継続の方向にけりがついたようだった。

また、近年、福祉政策に重点がおかれつつあったロシアに対してすばらしい福祉国家であるデンマークは、かつての不信感がなくなりつつあった矣先、「やはり、ロシアはロシアであったか」という声が聞かれた。

九月十六日、ノルウェーのオスロに到着した。

ノルウエーは、長い間、ナチ、ドイツの占領にあったようで、今度の事件でも、東ドイツがソ連軍に積極的に加担したことに非難の目がむけられていた。

第二次世界大戦後二十余年を経過した今日、ヒットラー時代の悪印象を未だぬぐい去ることができないようである。

また、来年は、ノルウエーとソ連の青少年の交流を計画していたのが中止になったことを青少年スポーツ省で聞いた。

九月二十二日、重武装中立国として知られるスエーデンに入国した。

武力に対しては、武力を持たなければ中立政策を実行できないとするこの国、ソ連の脅威には、必要以上に神経をつかっているように見受けられた。

九月二十六日、花の都パリに到着。

長い歴史に培われたフランス人の気質は、フランス共産党のソ連に対する はげしい抗議の中にありありと見られた。

大国と小国

大国ソ連を先頭に一九五五年、ポーランド、東ドイツ、ハンガリア、ルーマニア、ブルガリア、アルバニア、チェコスロバキア間で調印された東欧八ヵ国友好協力相互援助条約、大国アメリカを先頭に一九四九年、イギリス、ベルギー、カナダ、デンマーク、イタリア、アイスランド、ルクセンブルグ、オランダ、ノルウェー、ポルトガル、ギリシヤ、トルコ、西ドイツ間で調印された北大西洋条約は、東西の西大国の下に集まる小国家群そのものにほかならない。

東欧諸国政府の対ソ依存を大きくした一因がアメリカ政策そのものにあったと言われている。

一九四七年、東西の分裂がまだ氷のように固まっていない当時、アメリカのマーシャルプランによる援助をもう条件として、自分たちが亜ヒ酸で戦いとった政体の変革を要求され、これらの国の政府は、やむをえず、ソ連に援助をあおがざるを得なかったようである。このようなことからして東欧の小国家群は、必らずしもソ連を信頼してその体制下にいるようには思われない。彼等は、自らを閉鎖し、すべての国との国際関係の幅広い発展から生れる利益を断念することは出来ないのである。

ソ連のような大国であればともかく、小国家群は、自由化による活路を見い出さねばならないようである。

自由化の問題は、一人小国にのみ言えることではなく、ソ連国内にもその兆しがないでもない。チェコ事件がソ連の国内にもその兆しがないでもない。チェコ事件がソ連の国内にもその兆しがないでもない。チェコ事件がソ連の

地方だより

活動を絶ゆまず続け
地域に確っかり根を張ろう

○　五月は全国大会の終った月でもあり、各組織でも一息というところもあるが、活動は○体みなく続けられている。地域をリードする我々は更に発展を自ざして頑張らなければ○ならない。○

例会に新しい試み
活動を会員のもののため

城北支部（田中英健君）では、今年で結成二年になるが、昨年の活動の欠点のことして例会の運営について、会員から「例会が連絡の場になってしまった」「本来ならば、話し合いの場ではないのか」という不満があった。

執行部は、これを是正するために会員に対して、無のところから「例会でどんなことをしたらよいか」など聞くのではなく、会員に例会についてのもの、身をもって感じてもらい「例会には、こういうものだ」と会員に問題意識をもってもらう方法を実施することに決定した。

とりあえず、六月までの四回の例会に会員数名を選び、その会員に、テーマを決めて例会に提出する方法にした。

その一回目として、五月十日第一回例会は、丁度、五月三四五日、十一年ぶりの三連休だったので、この機会に「レジャーの真のあり方について」「日本人は、レジャーを利用して、なぜ旅行するのか」など、良い機会なので、レジャーについて考え直す。題して「レジャーについて」というテーマが会員から提出され、連休を、どのように過ごしたのか、また運休は「家庭で過ごす」班と「行楽地へ出かける」班に分け討論し、珍問、珍答など出て、なごやかに終わった。

五月二十四日の第二回例会は、「青少年と家庭」と題して、「K君の悩み」という事例討議をするはずだった。

最初の頃は、緊張していたが、題材が「家庭と青少年」という身近な問題だったので「自分のこと」と「自分の家庭のこと」「経験話」「登場人物の人物像」など活発なる意見が次第に百出し、白熱した討論がなされ、有意義な一時間半であった。

終了後、「また事例討議をやりましょう」との会員の声が聞かれた。

なお五月に行なわれた活動は

三日、四日、五日　全国大会参加
七　日　早朝墓参会　第三回執行部会
十　日　第一回例会
十四日　第四回執行部会
十八日　映画鑑賞会＝「超高層のあけぼの」優秀支部賞祝賀会
二十一日　第一回幹部会
二十三日　第五回執行部会
二十四日　第二回例　会
二十八日　第六回執行部会
三十日　第三回幹部会

また、北区教育委員会主催の青年館講座「話し方教室」「マナー教室」「文章の書き方」「法律講座」にそれぞれ参加している（六月まで）　以上

大きく進む活動を
伊東で支部総会開催

【伊東発】静岡県伊東支部（支部長＝高橋敏雄君）では四十四年度支部総会を去る四年三十日（木）午後七時より伊東信用金庫会議室に於いて開催した。

議長に鈴木武光君を選出したあと議事に入った。

四十三年度会務については井端事務局長が、会計については経理部長の本間英子さんが報告しそれに福田純一君が会計監査報告を行ない会員一致で承認された。

次に四十四年度活動方針の審議に入った。事務局の井端宣彦君より提案理由の説明がされ後活発な意見交換があり採択された。四十四年の骨子は、「会世界の人間的つながりを求め、国際連帯の上に立って世界平和と人類の福祉に寄与する方向を見い出さなければならない」ことを基本とし、そのためには"友愛"の言葉に努める一方・日常の活動の糧に、①友愛思想の究明を主とする勉強活動②自例のチャリティーショーをはじめとする社会福祉活動③会員相互の和をはかるためのレクリエーション活動④機関誌「友愛ニュース」を毎月発行することにより情宣効果をねらう・以上の四項目に焦点を合わせ四十四年の活動を推進することが決定された。

その他支部役員の構成変更等を合わ規約の改正、それに新役員の選出を行ない九時閉会した。

四十四年度新役員

支部長　高橋　敏雄
事務局長　井端　宣彦

連帯強むスポーツ
静岡県下四支部で開く

【三島発】静岡県三島支部（支部長＝久保田勝君）では、去る五月二十五日（日）に大仁中学校体育館で"友愛スポーツ大会"を主催した。

このスポーツ大会は、静岡県下沼津、田方、伊東、三島の四支部が一堂に集り、ソフトボールに投を競い合い親睦を深めることを目とした毎年恒例の行事である。当日はあいにく雨にあい種目をバレーボールに変更した。

開会は十時。プレーボールに先き立ち、三島支部副支部長、大川敦雄君が主催支部として挨拶を行なった。

各チーム女子三名、男子三名の混合チームからなり、相互扶助、相互尊重の精神を大いに発揮し、ほほえましい光景を見せていた。

午後四時閉会し楽しいレクリエーションの一日を過ごした。

同支部五月例会は二十八日（水）午後六時より開かれた。

福島支部役員改選

【福島発】福島支部（支部長＝佐藤皓夫君）では去る五月八日に役員改選を行ない、支部長に次のとおり新役員を選出した。

支部長　宮沢　敦子
幹　事　矢部　磨子（総括）
鳴原ミサ子（事務）
佐藤　峰子（会計）
佐藤タミ子（組織）
郷村　弘（広報）
会計監査　紺野香代子
新事務局
福島市磯合字屋敷下10
地共アパート十九号

地元に密着
七尾支部結成準備

【七尾発】石川県七尾市に支部結成準備会が発足し、杉本忠一君を中心に目下、今年の夏には支部結成することを目標に活発な準備工作が進められている。

七尾市は能登半島の経済的中心地でもあり、当地に支部結成をみることは、同県の加賀支部と一体となり、石川県内は勿論のこと北陸全域に、強力な"友愛運動"展開が期待される。

当地の青年活動は、以前に比し低調になり、しかも大都市への人口流出により年々さびれていくいわゆる過疎化現象に苦悩していることから、青年の"若い力"による地域開発への期待は切実なものがある。こうした地域性に鑑み地域に密着し、地域の発展に寄与することを基本方針とし、活発な友愛運動を展開して行くであろう。

友愛北海道の要
小樽支部　高橋謙二

第十二回全国大会にて、本会の創立当初から参加した中川治男常任幹事をはじめ四名の常任幹事が揃ってOBとして友愛運動の指導に当ることになった。

そして新たに六名の新常任幹事が選出され常任幹事に選出された。

新常任幹事の紹介

新常幹プロフィール

北海道に友愛運動が根をおろしてから約十年、その間、吉川昭市、三浦吉治の両氏が本部常任幹事として活躍した。そして今大会において三浦吉治氏は参与に就任し代って高橋謙二君が常任幹事に選出された。

新常任幹事高橋謙二君は昭和十年福島県双葉郡富岡町生れ。二十八年北海道小樽市秋高卒、小樽市役所に勤務。この時から彼の青年活動がはじまる。職場の二十五歳以下の青年を集めて若い活動をおこなう。

昭和四十二年に北海道支部の事務局長就任後の小樽支部は積極的に支部活動を展開し、彼が支部長就任後の小樽支部を再建し支部長になる。現は彼の兄さんが代表取締役をしている株式会社高橋建築業専務取締役、株式会社道建設計連合常務取締役、三國鋼機株式会社取締役をしている。

青少年関係では小樽市青少年問題協議会委員、北海道青少年連絡協議会理事、北海道青少年会館建設特別委員、小樽市青年団体連絡協議会青少年会館建設委員会顧問の要職にある。

昭和四十二年には世界青少年交流協会派遣のヨーロッパ指導者班団員として尾形幹事長とともにヨーロッパを視察。

過去の経験を生かし友愛運動の中心的な役割をはたすようになる。さらにその全国大会で全国幹事に選出する。

現は彼の兄さんが代表取締役をしている株式会社高橋建築業専務取締役、株式会社道建設計連合常務取締役、三國鋼機株式会社取締役をしている。

過去の経験を生かし友愛運動の中心的な役割をはたすようになる。さらにその全国大会で全国幹事に選出する。

昭和四十二年には北海道支部連合会副会長に選ばれ、小樽のみならず北海道全体の友愛運動に一躍全国各支部の注目を集めるようになり過去優秀支部賞を受賞している。

三十六年から民間会社に入り、そしても親ぼくメクループを作りその責任者として若者から信いされ同僚から親しまれ、後輩から尊敬された。

彼は小樽支部の小樽支部長であった友愛の小樽支部の青年活動を展開し、四十一年友人の紹介で友愛青年同志会を知りそれまで停滞状態で

大仁中学校体育館での熱戦のこもった一戦

理論委員募集

"友愛理論"をみんなで学びみんなで研究し"友愛理論"をさらに発展させる。

資　格　本会々員であれば誰でも委員になれます。
研究方法
- 月1度定期に開催。
- 委員による研究レポート発表
- 学識経験者を招待（資料の収集）

会　場　本　部
申込方法　7月31日（火）まで本部に申込む（電話でも可能）

※第1回理論委員会
6月25日（水）於本部午後6時30分～8時30分（2時間）

中央日誌

5/2 中青連委員会（後三時　於町村会館）
3 第三回常任幹事会（後八時半　於鶴井沢旭友ロッヂ）
3 第十六回全国大会（於鶴井沢友愛山荘）
4 第十六回全国大会
5 第十六回全国大会
7 早朝墓参会（前六時半　於谷中墓地）
12 修養団主幹運営四三氏、米寿祝賀会（後一時　於経団連ビル）
万国博覧会記念世界青少年の集い準備委員会（後三時　於中青連）
四十四年度第一回常任幹事会（後六時半　於会長邸はなれ）
14 友愛クラブ五月例会（正午　於東京ヒルトン）
世界連邦第一回常任理事会（正午　於参議員会館）
16 北方領土問題連絡協議会（前十一時、於南方同胞援護）
17 全国大会スタッフ慰労会（後七時　於神田）
21 四十四年度第一回執行部会（後六時半　於本部）
24 同盟主催「若人の集い」（正午　於渋谷公会堂）
青少年育成国民会議幹事会
25 世・交流協会独国派遣本会代表者研修会（前九時　於本部）
26 万博世界青少年の集い実行委員会（後一時　於日青館）
中青連委員会（後三時　於日青館）
新青活運動協会評議員会（後一時半　於都道府県会館）
28 政策委員会（後六時半　於本部）
29 日本青年奉仕協会役員会（後一時　於観山会館）
30 青少年育成国民会議幹事会（前十時　於共済会館）
6/2 中青連委員会（後三時　於町村会館）
8 第三回常任幹事会（後八時半　於鶴井沢旭友ロッヂ）
9 早朝墓参会（前六時半　於谷中墓地）
11 米寿祝賀会（後一時　於経団連ビル）
万国博覧会記念世界青少年の集い準備委員会（後三時　於中青連）
四十四年度第一回常任幹事会（後六時半　於会長邸はなれ）
14 友愛クラブ六月例会（正午　於東京ヒルトン）
世界連邦第一回常任理事会（正午　於参議員会館）
16 北方領土問題連絡協議会（前十一時、於南方同胞援護）
17 全国大会スタッフ慰労会（後七時　於神田）
18 第三回常任幹事会（後八時半　於鶴井沢旭友ロッヂ）
19 早朝墓参会（前六時半　於谷中墓地）
21 米寿祝賀会（後一時　於経団連ビル）
万国博覧会記念世界青少年の集い準備委員会（後三時　於中青連）
四十四年度第一回常任幹事会（後六時半　於会長邸はなれ）
23 友愛クラブ七月例会（正午　於東京ヒルトン）
世界連邦第一回常任理事会（正午　於参議員会館）
24 北方領土問題連絡協議会（前十一時、於南方同胞援護）
28 政策委員会（後六時半　於本部）
29 日本青年奉仕協会役員会（後一時　於観山会館）
30 青少年育成国民会議幹事会（前十時　於共済会館）

綜合警備・各種建築内外清掃
ボイラー・電気保守管理業
指定　北海道教育委員会・札幌市教育委員会
空知市教育委員会
株式会社日本製鋼所
東洋実業株式会社
代表取締役　吉川昭市
副社長　向田忠一
本社札幌市南1条南2丁目（勧銀ビル8階）
電話 代表25－2211内線219
直通26-9520・9521夜間直通25-2217
営業所　釧路・帯広・室蘭・苫小牧・岩見沢

創業25年余の伝統と技術を誇る！
特殊切削工具メーカー
森山精密工具株式会社
取締役社長　五十嵐省吾
本社工場　東京都品川区西大井6－14－3　TEL（03）774－0881（代）
第2工場　東京都品川区豊町2－8－7　TEL（03）783－6405
営業所　東京都墨田区東向島6－52－5　TEL（03）614－4197（代）

株式会社中嶋組
取締役社長　中嶋信行
東京都世田谷区上馬中町二の五九
電話（七〇）一三三～四番
営業品目
アスファルト系舗装工事
セメント系舗装工事
其の他各種舗装工事
舗装に付帯する各工事

営業品目
機械部　電子計算機・電子複写機・タイムレコーダー・ベルタイマー
化成品部　ビニール・プラスティック・ポリエチレン製品の製造友加工
紙業部　紙袋・包装紙印刷・洋紙特殊紙・その他・紙工品
自動車部　ホンダ N360・ホンダ二輪車・自動車損害保険
特販部　コピー用紙（電子・ジアゾー・ゼロックス）現像液・トナー・写真
ニッセー株式会社
東京都千代田区外神田4丁目5番4号
電話東京(03) 253－7581（代）